





## 1 那覇市の概況

### 位置と気候

那覇市は沖縄本島の南部にあり、東シナ海に面し、東経 127.41 度、北緯 26.13 度に位置する県都である。地形は、旧市内を中心とする中央部においてはほぼ平坦をなし、これを取り巻くように周辺部には小高い丘陵地帯が展開し、東西に 10.9km、南北に 8.0km、総面積は 41.42 k m<sup>2</sup>である。

亜熱帯モンスーン地帯に属する沖縄県の気候は、四季を通じて温暖で、年間の平均気温は 23.7℃※、平均湿度は 75.3%※であり、春から夏にかけては雨量が比較的多く、夏から秋にかけては毎年数個の台風が襲来している。  
(※の数値は 2014 年～2023 年の平均値 気象庁ホームページより)

### 人口と産業

大正 10 年に市制が施行されたとき 63,000 余人であった那覇市の人口は、以後徐々に増加を続けていたが、昭和 19～20 年の沖縄戦で市域の 90%を焼失し、8,000 余人に激減した。終戦後、那覇市は米軍の全面占領下におかれ、立入禁止区域となっていたが、昭和 20 年 11 月に産業復興の名目で陶器製造産業先遣隊が壺屋地域一帯に入域して以来、民政府など中央機関が那覇に移転し、旧那覇市街が漸次開放されるようになり、市民の活動も活発になってきた。昭和 29 年に首里市と小禄村、昭和 32 年に真和志市と合併し、一挙に 186,000 余人となり、新しい那覇市建設の基盤ができた。現在の人口は約 314,000 人、平成 25 年 4 月 1 日には県内初の中核市へ移行するなど、県都として沖縄県の政治、経済、文化の中心として発展している。

本市の産業構造は、第 3 次産業の比率が非常に大きく都市型構造となっている。現在、観光産業の充実、中心市街地の活性化、地場産業の振興等のための環境整備が進められている。

### 那覇市の教育行政の歴史的特色

本市は、「大和ぬ世からアメリカ世、また大和ぬ世」といわれる数奇な歴史を歩んできた。その中でも教育行政においては、アメリカ施政権下の影響を受け、全小学校に幼稚園が併設されるなど、沖縄の歴史的背景をもち、他とは異なる特色を有している。

## 2 那覇市管内別人口（登録人口）

令和 6 年 4 月末時点

区 分	世帯数	人 口		
		総数	男	女
本 庁	54,261	98,811	47,694	51,117
真和志支所	52,780	101,730	49,094	52,636
首里支所	25,237	55,350	26,246	29,104
小禄支所	27,766	57,904	28,809	29,095
合 計	160,044	313,795	151,843	161,952

※住民基本台帳法の改正（平成 24 年 7 月 9 日施行）に伴い、外国人住民も含む。

### 3 第5次那覇市総合計画体系

#### 第5次那覇市総合計画

(基本構想・基本計画)

【まちづくりの将来像】

**なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA**  
～ みんなでつなごう市民力 ～

**基本構想  
(めざすまちの姿)**

**基本計画(各施策)**

多様なつながりで  
共に助け合い、  
認め合う安全安心に  
暮らせるまち  
NAHA

互いの幸せを  
地域と福祉で支え合い  
誰もが輝くまち  
NAHA

次世代の未来を拓き、  
豊かな学びと文化が  
薫る誇りあるまち  
NAHA

ヒト・モノ・コトが  
集い、育ち、ひろがる  
万国津梁のまち  
NAHA

自然環境と  
都市機能が調和した  
住みつけたいまち  
NAHA

**政策** 子育てが楽しくなるまちづくり

- 施策** すべてのこどものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる
- 施策** 支援が必要な子どもや保護者に必要な支援が届くまちをつくる

**政策** 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり

- 施策** 自ら学び心豊かに成長する子どもを応援するまちをつくる
- 施策** 学校施設の補修・整備をすすめ、安全安心な教育環境があるまちをつくる

**政策** 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり

- 施策** どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる
- 施策** どこでも誰でも生涯スポーツができるまちをつくる
- 施策** 学校が学びや育ちの拠点となるまちをつくる

**政策** 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり

- 施策** 文化が保存され継承されるまちをつくる

\* 第5次那覇市総合計画より教育分野に関する政策・施策を抜粋